

だい かいみやまえ ち く せいしょうねんさくひんてん しょうどう ぶ こうひょう
第38回宮前地区青少年作品展『書道の部』講評

みやまえく こ さくひん み はくりよく かん もじ
宮前区の子どものたちの作品を見て、「迫力があるなあ」と感じました。文字
む あ ことば たいせつ か りきさく
と向き合って言葉を大切にしっかりと書いた力作ぞろいでした。

わたしたち にちじょう もじ み おお ふでもじ ふと
私達は日常パソコンの文字を見ることが多いですが、筆文字は太いところ
ほそ はら か ひと いき
と細いところがあったり、「払い」や「はね」があったりして、書いた人の息づ

き かいが聞こえてくるようです。そこが筆文字の魅力的なところだと思ひます。

きほんてき ふで なんと れんしゅう てほん み か じけい
基本的な筆づかいを何度も練習して、お手本をよく見て書くことで、字形が

あたま はい か か
頭に入ります。そして「こんなふうにかきたい」というめあてをもって書く
てほん ことば か ひと ことば み ひと ころ う
ことで、お手本の言葉が、書いた人の言葉になって見る人の心を打ちます。

しょうがっこう ふで まな しひつ れんしゅう きほんてんかく しゅうひつ
小学校では、まず筆づかいを学びます。始筆を練習し、基本点画の終筆「と

め」「はね」「払い」、送筆の「曲がり」「折れ」「そり」を何度も練習すると、

にちじょう じ い ふでもじ おお か
日常のいろいろな字で生かすことができます。筆文字で大きく書くことで、

こうひつ か しぜん うつく か がっこう
硬筆で書くときに自然と美しく書くことができるようになります。学校では、

ひとりいちだい はいふ じぶん かみ もじ か たいせつ
一人一台パソコンが配付されていますが、自分で紙に文字を書くことは大切に

しょうがっこうていがくねん ふでもじ と く もじいしき たか
していきたいです。小学校低学年から筆文字に取り組むことで、文字意識が高

にちじょう い おも みやまえ ち く せいしょうねんさくひんてん ていがくねん
まり日常に生きてくると思ひます。宮前地区青少年作品展には、低学年の

さくひん おお しゅっぴん うれ かん
作品も多く出品されていて、とても嬉しく感じました。

かみ おお おさ はいち はいれつ たいせつ もじ だい
紙の大きさにぴったり収めるには、配置や配列も大切になります。文字の第

かくめ しひつ いち かなら たし か じょうげ よはく たいせつ
1画目の始筆の位置を必ず確かめて書いてください。上下の余白も大切です。

かだい もじ かんじ りょうほう ちゅうしん き つ かんじ おお
課題文字は漢字とひらがな両方ありました。中心に気を付けて、漢字は大き

すこ ちい か よ はや か
くひらがなは少し小さめに書くとバランスが良くなります。また速く書くと

か かんが もじ ふと ほそ で さくひん
ころ、ゆっくり書くところを考へてかくと、文字の太さ細さも出てきて、作品と

いきお う
して勢いやまとまりが生まれます。

ふで か ことば ことば い み かだい もじ ことば い み
筆で書くのは、言葉です。言葉には、意味があります。課題文字の言葉の意味

かんが こ か さくひん とく みりよく かん ぜ ひ
を考へ、その子らしく書いている作品に特に魅力を感じました。是非これか

ふでもじ と く せかい ひと さくひん と く おも
らも筆文字に取り組み、世界に一つだけの作品づくりに取り組んでほしいと思

ひます。